

4 その



野川

橋樹の古利と郡衙跡

野川地区について

野川は、北方に影向寺台が突出し、矢上川の低地を挟み、野川台及び野川南台と向き合っている。落武者伝説が残る権六谷戸をはじめ、多くの谷戸が発達している。江戸時代に上野川村・下野川村・野川新田に分かれていたが、明治8年(1875)、これらの村が合併して野川村が誕生した。同22年(1889)に有馬村・梶ヶ谷村・馬絹村・土橋村などと合併して宮前村に発展したが、昭和13年(1938)、川崎市に合併された。同47年(1972)には高津区に編入され、同57年(1982)、高津区から宮前区が分区した。縄文時代前期の十三菩提遺跡から出土した土器は標式遺跡で知られている。弥生時代の野川神明社境内遺跡、弥生時代から古墳時代の野川神明社南遺跡もある。発掘調査の結果、7世紀後半に影向寺が創建され、寺の東方に武蔵国橋樹郡衙が置かれたことが確認された。平成27年(2015)3月川崎市初の国史跡(橋樹官衙遺跡群)となる。



下の谷

ポイント解説 (数字は裏面の散策コースのポイントに対応しています。)

① 法螺貝谷 ② 天神谷

法螺貝谷(ほらがいやと)という名称は、熊野社の修験僧が吹いた法螺貝の響きから付けたと言うが、谷戸の形状がS字状で法螺貝に似ている。天神谷は東西700m、最大幅300mの谷戸。先述の法螺貝谷や、池の谷などの枝谷を持つ。天神と言う名称は、昔、西蔵寺の天神が祀られていたことに由来すると言う。



③ おくまん坂

熊野社に由来する坂で、天神谷の北端を通る。中原街道と大山街道を結ぶ重要な道であった。

④ 子育て地蔵



昔、巡礼者がここで行き倒れになったので、土地の人が地蔵尊を祀り手厚く葬ったと伝えられている。祠の中には母親が子供を抱いて拜んでいる絵馬も飾られている。

⑤ 巡拝塔

天保9年(1838)、四国霊場・秩父観音札所・出羽三山などを巡拝した記念塔。道標を兼ねており「東江戸道」「西大山道」と記されている。塔の前を通る道は、中原街道と大山街道を連絡していた。



⑥ 影向寺(ようごうじ)



天台宗の寺で威徳山影向寺と称す。聖武天皇の勅命で僧行基が建立したと伝える川崎市最古の寺。創建は奈良時代の天平12年

(740)と言われたが、昭和55年(1980)から続く調査の結果、「无射志国荏原評(むさしのくにえばらごおり)」銘の文字瓦が出土し、鏡(あぶみ)の文様等から、白鳳時代末期に遡ると見られるようになった。本尊薬師三尊像は、平安時代後期の作と言われ、国の重要文化財に指定されている。

参考文献

『新編武蔵風土記稿二』 昭和44年 歴史図書社
『川崎地名辞典上下』 平成8年 川崎地名研究所所蔵
『川崎市石造物調査報告書』 昭和54年度 川崎市教育委員会

⑦ 橋樹郡衙跡(たちばなぐんがあと)

平成10(1998)～19年(2007)度の調査で確認された遺構で、7世紀後半に伊勢山台地に作られたものである。郡衙は郡家とも呼ばれ、郡内の政務や儀式を行う郡庁、税金として集めた稲などを保管する正倉、郡司の宿泊施設である館(たち)、郡衙の厨房施設である厨家などがある。郡衙推定地から正倉跡が発掘されたが、その他の建物群も郡庁・館・厨家と推測されている。



⑧ 野川神明社



野川の鎮守で、早い時代から韋駄天神を祀る。明治時代初期に神明社を合併し、さらに八坂神社と子の神(ねのかみ)社を合祀。境内にある野川町内会館敷地からは、縄文時代前期の住居跡や、弥生時代の方形周溝墓が発掘され、野川神明社境内遺跡と呼ばれている。また野川神明社南遺跡からは、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡約60軒が確認されている。

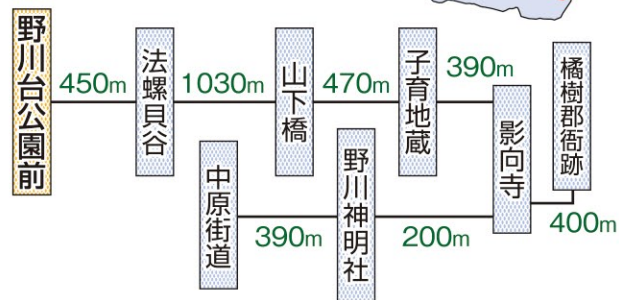
⑨ 影向寺道

中原街道から勸進坂を上り影向寺に向うルート(⑨-1)と、大山街道の梶ヶ谷から影向寺に向うルート(⑨-2)があった。梶ヶ谷からは、増福寺・杉山神社・養福寺を通り影向寺に向っていた。梶ヶ谷には道標を兼ねた庚申塔があり、「やうごうじ」と記されている。

⑩ 中原街道

江戸時代、虎ノ門と平塚市にあった徳川将軍家の中原御殿を結んでいた道で、東海道の脇街道として物資の運搬等にも利用された。街道の歴史は古く、川崎市初の国史跡となった橋樹官衙遺跡群の橋樹郡家跡(高津区千年)に隣接しており、延喜式で定められた官道(古東海道)の一部であった可能性もある。天正18年(1590)、徳川家康はこの道を通り江戸に入っている。家康は鷹狩を盛んに行ったが、江戸近郊の民情視察も兼ねたという。

全長
約3.5km

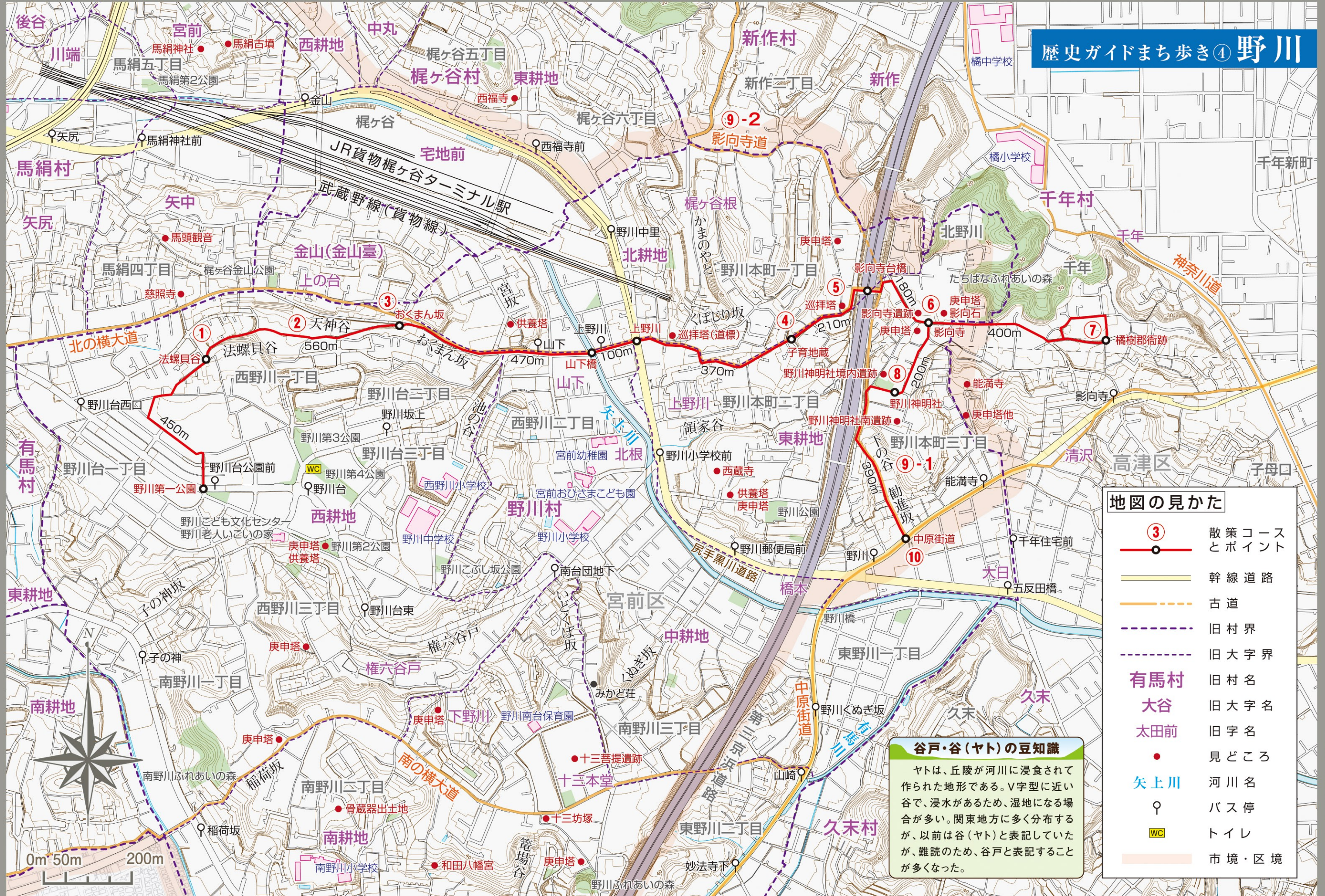


インフォメーション: [野川台公園前] へのアクセス

(バス)「鷺沼駅」「梶ヶ谷駅」「小杉駅前(武蔵小杉)」「中原駅前」などから乗車し「野川台公園前(バス停)」で下車してください。

『川崎の庚申塔』 昭和60年度 川崎市博物館資料調査団
『川崎の民俗』 昭和54年 角田益信著
『村況史料集下』 平成2年 川崎市市民ミュージアム

歴史ガイドまち歩き④ 野川



地図の見かた

	散策コースとポイント
	幹線道路
	古道
	旧村界
	旧大字界
有馬村	旧村名
大谷	旧大字名
太田前	旧字名
	見どころ
矢上川	河川名
	バス停
	トイレ
	市境・区境

谷戸・谷(ヤト)の豆知識

ヤトは、丘陵が河川に浸食されて作られた地形である。V字型に近い谷で、浸水があるため、湿地になる場合が多い。関東地方に多く分布するが、以前は谷(ヤト)と表記していたが、難読のため、谷戸と表記することが多くなった。